



Data

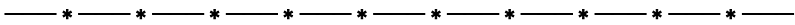
監督・脚本：アマンダ・シェーネル
出演：レーネ＝セシリア・スバルロ
ク／ミーア＝エリーカ・スパ
ルロク／マイ＝ドリス・リン
ピ／ユリウス・フレイシャン
デル／ハンナ・アルストロム
／オッレ・サツリ

👁️👁️ みどころ

島崎藤村の小説『破戒』は、被差別部落出身の主人公、瀬川丑松の悲しい人生が描かれていたが、本作はラップランド地方に住む少数民族サーミ族の少女の悲しい人生を描くもの。

『ヒトラーの忘れもの』では、敗戦後のデンマークで地雷処理に強制的に従事させられるドイツ人の少年兵の姿に驚かされたが、スウェーデンではサーミ族の脳は劣っており社会生活に適応できないとされ、居住区に住まわされているサーミ族の実態には更にビックリ！

14歳の少女のあっと驚く大胆な行動をしっかりと鑑賞しながら、世界にはこんな悲しい現実＝民族差別があることをしっかりと学習したい。



■東京国際映画祭でW受賞！■

本作は2016年の東京国際映画祭で審査員特別賞と最優秀女優賞をW受賞したもので、北欧のスウェーデンから届いた映画。また、北欧最大の映画祭であるヨーテボリ国際映画祭2017年では、『ヒトラーの忘れもの』（15年）が前年度に受賞した最優秀ノルディック映画賞を獲得した映画だ。『ヒトラーの忘れもの』では、ナチスドイツの敗北後、デンマークに残されたドイツ人の少年兵が強制的に地雷除去作業に従事させられる姿が描かれていたが、今まで全く知らなかったそんな「史実」があったことを同作ではじめて知って私はビックリ（『シネマルーム39』88頁参照）。

しかして、本作はラップランド地方、いわゆるノルウェー、スウェーデン、フィンランドの北部とロシアのコラ半島でトナカイを飼い暮らし、フィンランド語に近い独自の言語

を持つ先住民族であるサーミ族についての悲しい映画だ。1930年代、スウェーデンのサーミ人は他の人種より劣った民族として差別されていたそうだが、さてサーミ族の本作の主人公である14歳の少女エレ・マリヤ（レーネ＝セシリア・スパルロク）は具体的にどんな差別を受けていたの・・・？

■□■サーミ族って何？映画は勉強！■□■

日本の少数民族としては北海道のアイヌ族が有名だが、彼らは明治政府が北海道に進出するについて圧迫され虐げられた少数民族。1930年代のスウェーデンにおけるサーミ族もそれと同じように、いやそれ以上に「他の民族より劣った民族」として差別されていたらしい。

本作前半、妹のニエンナ（ミーア＝エリーカ・スパルロク）と共に寄宿学校に入った14歳のエレ・マリヤが、①サーミ語を話すことを禁じられ、②骨相学的検査のために全裸で写真を撮られることを強制され、③進学のための推薦状を書いてくれと依頼すると、エレ・マリヤの優秀さを認めている女教師（ハンナ・アルストロム）でさえ、サーミ族の脳は劣っており、文明に適応できないから推薦状は書けないと断られるシーンが登場する。それを見ていると、サーミ族に対する根強い差別がいかに強力だったかがよくわかる。

本作前半では、サーミ族の集団生活の姿やトナカイを飼育して生計を立てている姿が登場するので、それに注目！日本では、明治時代に島崎藤村の小説『破戒』のテーマとされたいわゆる部落差別（同和問題）があったが、1930年代のスウェーデンにはそれと同じようないやそれ以上に深刻な民族差別問題があったことを本作ではじめて知り、ビックリ！

■□■14歳の少女の大胆な行動 その1■□■

日本人が最も好きな中国映画の1つが若き日の章子怡（チャン・ツイイー）の可憐なお下げ髪姿と赤い服が良く似合っていた張藝謀（チャン・イーモウ）監督の『初恋のきた道』（00年）（『シネマルーム5』194頁参照）。同作では冒頭、母親の葬式のために里帰りしてきた息子の回想シーンから少女時代のチャン・ツイイーが登場したが、そんな構成は本作も同じだ。今やシワだらけの老女になったエレ・マリヤ（別名クリスティーナ）（マイ＝ドリス・リンピ）は今、妹ニエンナの葬儀に参列するため、息子のオッレ（オッレ・サッリ）の車に乗って、渋々「生まれ故郷」に戻ってきた。そして、波のように押し寄せてくる感情の中、エレ・マリヤは14歳の頃の自分を思い出すことに・・・。

サーミ族として暮らしていた14歳の頃、エレ・マリヤは妹のニエンナと一緒にサーミ族のための寄宿学校に入ったが、そこでは嫌な思いばかり。地元の若者たちはサーミ族の民族衣装を着たエレ・マリヤを見ると、「ラブ人だ。臭えな。あいづら仕留めりゃ賞金が出るぜ。」と口々にバカにしていた。また、学校ではサーミ語は禁止、すべてスコットラン

ト語で話さなければならなかった。成績優秀だったエレ・マリヤが進学のための推薦状を依頼しても、前述の理由でダメ。これでは八方ふさがりだ。そこである日、エレ・マリヤは大胆な行動に・・・。

それはある日、女教師の家の前に干してあったワンピースを着てみたこと。民族衣装でないそのワンピースを着ると、男の子たちから「パーティーに来ないか？」と誘われたから、さあどうしよう・・・？思い切ってパーティーに顔を出してみると、サーミ族とわからないエレ・マリヤに対して、かっこいい男の子ニクラス（ユリウス・フレイシャンデル）が声をかけ、ダンスに誘われることに。エレ・マリヤは自分の名前をクリスティーナと名乗って、ダンスに興じたが、そこは若い男女のこと。少しずつ行動がエスカレートし、キスを交わすまでに・・・。

もっとも、妹のニエンナがここまで捜しにくると、連れ戻されたエレ・マリヤにはあの女教師による手荒い「お仕置き」が待っていたが・・・。

■□■ 14歳の少女の大胆な行動 その2 ■□■

寮に連れ戻されたエレ・マリヤは、文字通りカゴの中の鳥。ここから何とかして脱出したい！外の世界へ出てみたい！そう考えてニクラスの家がある町の地図を調べたエレ・マリヤは、ある日サーミ族の民族衣装を燃やし、女教師の服を盗み、たった1人で汽車に乗ってその町まで行くという大胆な行動に出ることに。ニクラスの家を訪れると、あいにくニクラスは留守だったが、母親には「遊びにこいと言われた」とウソをつき、厚かましくも家の中に入り夕食を食べながらニクラスの帰りを待つことに。

そして、その日はニクラスの家泊めてもらうことになったが、これには（この厚かましさには）ニクラスはもちろんニクラスの両親もビックリだ。しかし、ここでも若い男女のこと。やることはしっかりやっていた（？）から、エレ・マリヤの来訪にいい顔をしなかった両親は、ニクラスに「あの子はラップ人よ。妊娠でもしたらどうするつもりなの？早く帰ってもらいなさい」と最後通告をしたのは当然だ。

そんな両親の決断を伝えるニクラスに対して、エレ・マリヤは、さらに「メイドとして雇ってくれない？」と食い下がったが、もちろんそれが聞き入れられるはずはなし。1人家の外に出されてしまったエレ・マリヤは、さてこれからどうするの・・・？

■□■ 14歳の少女の大胆な行動 その3 ■□■

普通はそこまで見放されたら諦めて故郷（サーミ族の集落）へ帰るものだが、エレ・マリヤは根性が据わっている。一人野宿をし、翌日の昼間に学校の図書館をうろついていると、「新入生？何しているの？早く着替えて。」と声をかけられたエレ・マリヤは、クリスティーナ・ライレルと名乗って体操の授業に参加することに。

エレ・マリヤのこの大胆な行動にはビックリだが、日本人の私にはいくら何でもこのス

トリー展開はいかなもの・・・？だって、エレ・マリヤはあくまでエレ・マリヤであって、クリスティーナではないことはちょっと調べればすぐにわかることだし、入学許可書も持っていないのだからエレ・マリヤがもぐりの生徒だということはすぐにバレてしまうはずだ。しかし、そこは映画だから1986年生まれのスウェーデン人の女性監督アマンダ・シェーネルはちょっと脱線気味(?)にエレ・マリヤがスウェーデン人たちの生徒に混じった学園生活を描いていく。

しかし、そこで「授業料を支払え」との督促状がきたから、エレ・マリヤは大慌て。そこでエレ・マリヤは厚かましくも再度ニクラスの家を訪れ「カネを貸してくれ」と頼んだが、さて・・・？

■□■サーミの血をどう考える？■□■

『破戒』の主人公、瀬川丑松は父の戒めをしっかり守り、被差別部落出身の生い立ちと身分を隠して生きてきたが、最後にはその素性を打ち明け、アメリカのテキサスへと旅立っていった。それに対して、サーミ族を嫌い、何とかスウェーデン人になろうと努力したエレ・マリヤは、その後どうなったの？

授業料を払わなければ学校から追い出される。そして、ニクラスからお金を貸すことを断られた以上自分の親に頼むしかない。そう考えたエレ・マリヤはさらに厚かましくも居住区に戻って母親に無心したが、母親の答えは「そんなお金はない」だった。それに対して、エレ・マリヤは「父さんの形見の銀のベルトを売ればいい！」と食い下がったが、母親からは「何てことをいうの！」と完全拒否。

そこで、仕方なく居住区内を歩き回っていたエレ・マリヤは「そうだ。私のトナカイを殺して売れば・・・!」。そう考えたエレ・マリヤは逃げ惑うトナカイを一本捕まえて殺したが、そこに妹と共にやってきた母親は、黙ってエレ・マリヤに父親の銀のベルトを手渡すことに・・・。これを売ればたしかに当面の授業料を支払うことはできるだろうが、さてその後のエレ・マリヤの生活は・・・？

それは本作では描かれていないので1人1人の観客が自ら考えるしかないが、きっとエレ・マリヤのその後の人生は『破戒』の瀬川丑松と同じように、自分の生い立ちと身分を隠してスウェーデン人に混じって生きてきたのだろう。しかし、いくら素性を隠しても、エレ・マリヤの身体の中に流れているサーミの血は・・・？

2017 (平成29) 年8月7日記